



ななほ

市民の友

第680号 毎月1回発行
2007年(平成19年)

9月

発行●那覇市 編集●秘書広報課
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号
☎867-0111 ●印刷 (株)近代美術

市の人口と世帯	
※()内はうち外国人	
2007(平成19)年7月末現在	
総人口	316,057 (2,014)
男	152,524 (1,054)
女	163,533 (960)
世帯数	130,787 (1,202)
住民基本台帳人口の内訳(外国人を除く)	
本 庁	93,630
真和志	105,073
首 里	58,178
小 禄	57,162



顕彰式で笑顔を見せるテルシオ・ガルシア市長とジルベルト・ハンポン議長(円内)

末永い友好関係を

サンビセンテ市長に市 国際親善名誉市民顕彰

8月4日から10日の日程で、ブラジル・サンビセンテ市の市長一行が那覇市を訪れました。

市とサンビセンテ市は、1978年に姉妹都市を締結して以来、29年間にわたり、両市の市民・団体が、文化・経済交流など様々な親善交流を行い、市民間の相互理解と相互信頼を深めてきました。

今回の訪問は、那覇・サンビセンテ両市の友好親善を深めること、モノレールなどの各種公共施設、首里城公園や玉陵といった観光施設の視察を目的に実現しました。

滞在中の8月6日には、那覇市議会臨時会において、テルシオ・ガルシア市長とジルベルト・ハンポン市議会議長を、那覇市国際親善名誉市民として顕彰しました。

那覇市国際親善名誉市民顕彰は、賓客として来訪した外国人、または那覇市に特に関係の深い外国人の方を国際親善名誉市民として顕彰するもので、これまでに9名の方々に顕彰いたしました。

顕彰式で、ガルシア市長が「長年にわたり友好を深めてくれたことをうれしく思います。この友好関係を今後も続けてまいります」とあいさつすると、議場を埋めた市民や市議会議員のみならず、市職員から盛大な拍手が沸き起こりました。

主な紙面

- レジ袋有料化の実証実験を行います 2
- 台風シーズン到来! 3
- 備えは万全ですか? 4
- 平成18年度・那覇市の財政 5
- 情報PACK 6・7

協働のまちづくり つむ 那覇を紡ぐ

市では「協働のまちづくり事業」として、家庭用廃食用油を回収し、バイオディーゼル燃料として再利用する事業の協定を那覇市自治会長会連合会と交わしました。

バイオディーゼル燃料とは、ヒマワリ油やなたね油、大豆油、とうもろこし油などの植物由来の油や、家庭から出る使用済みのてんぷら油などから作られるディーゼルエンジン用の燃料のことです。

この燃料は、従来のディーゼル燃料にくらべると、一酸化炭素、炭化水素、粒子状物質の排出を10%から20%減少させるとともに、排気ガス中に硫酸酸化物や硫酸塩をほとんど出さないため、環境にやさしい燃料と言われています。

廃食用油回収で 協働のまちづくり

同事業は、市内の自治会のうち、37の自治会(約1万1千世帯)が、一般の家庭から出る廃食用油を自治会単位で集め、契約業者が回収し、バイオディーゼル燃料に精製するというものです。

地球温暖化防止京都会議をきっかけとして、全国に先駆けて家庭用廃食用油から代替燃料を精製する事業に取り組んできた京都市では、ごみ収集車や市バスでバイオディーゼル燃料を使用し、年間約4,000トンの温室効果ガスを削減した実績があります。また、同事業を行うことによつ



「協働」とは、まちづくりのために、市民・事業者・市民団体・行政などが、それぞれの特性を発揮しながら協力しあうことです。



元気なエイサーでオープニングを飾った真地太鼓の子どもたちも家庭用廃食用油の搬入のお手伝い